



いつもユネクスEFをご使用頂き誠に有難うございます。
FMD News Vol.6 をお届けいたします。

facebook



4月のTOPICS

- 血管内皮機能障害は、脳小血管疾患の重症度を予測する
- 4月の学会展示およびランチョンセミナー共催のご案内

■ 血管内皮機能障害は、脳小血管疾患の重症度を予測する

内皮機能障害に関連する脳小血管疾患には、白質病変 (WMLs) や脳出血 (CMBs) を含む疾患の病態が考えられ、本研究の目的は、(FMD により測定される) 血管内皮機能と脳小血管疾患の関連を検討しました。

対象は、脳血管疾患および合併症の既往がある患者 (n = 102; 男性: 69 人、年齢: 70.1 ± 9.2 歳)。患者は Fazekas 分類によって WMLs 重症度に応じて等級 0 と 1 は軽度、等級 2 と 3 は重度の WMLs として 2 つのグループに分けられました。

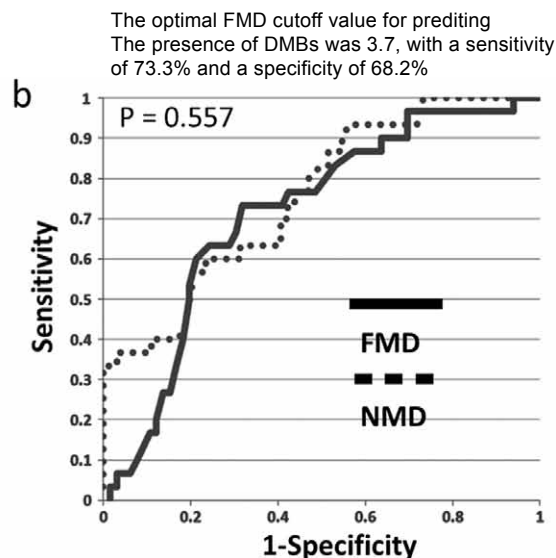
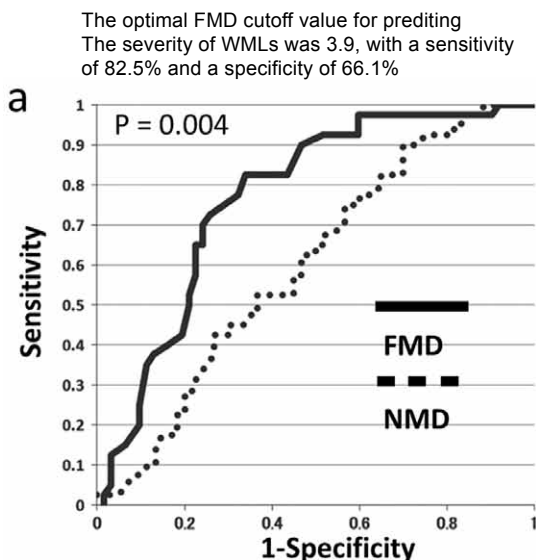
MRI は CMBs が存在していたかどうかを評価するために 96 例 (94.1%) に施行。

重度 WMLs 群 (n=40) の患者は、軽度の WMLs 群 (n=62) の患者よりも高齢 (P=0.001) で高血圧 (P=0.045) や糖尿病 (P=0.026) を有し、低い FMD 値を示していました。 (P<0.001)

CMBs は 30 例 (31.3%) に認められ、ROC 曲線を使用すると、重度の WMLs 及び CMBs の存在を予測する FMD の最適なカットオフ値 3.9% 及び 3.7%。多変量ロジスティック解析では FMD < 4.0% (オッズ比 9.50; 95% 信頼係数 3.55 28.83) が重度 WMLs と独立して関連していた。また、FMD < 3.8% (5.82; 2.23 から 16.50) で CMB の存在と関連していました。

FMD によって評価される内皮機能障害は、脳小血管疾患の重症度を予測することができます。

文献情報: Hypertens Res. 2015 Apr;38(4):291-7.



■ 4月学会展示およびランチョンセミナー共催のご案内

第 41 回日本脳卒中学会総会
株式会社デンソー ブースにて展示

日時: 4月14日(木)~16日(土)
会場: ロイトン札幌

第 1 回日本血管不全学会学術集会
ランチョンセミナー共催&展示

日時: 4月17日(日)
会場: 東京医科大学病院
第一教育研究棟第一・第二臨床講堂